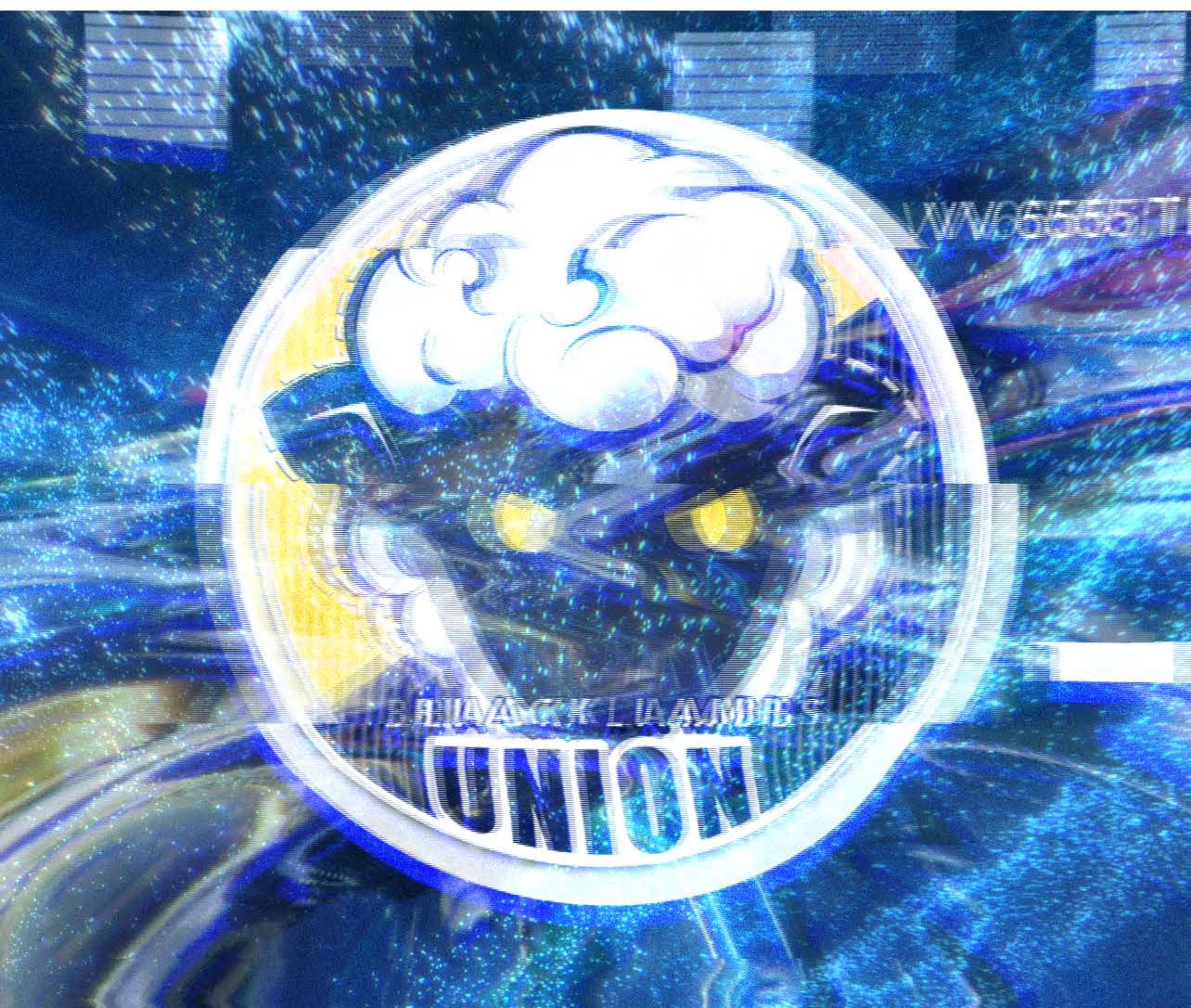




WHEEL OF TRINITY



ユニオンオトリ支部特殊処理班所属 ブラックランブスチーム

「なにこれ、ユイ？ヒルデガルトって…あのヒルデガルト？」

「は、はい…ヒルデガルト・ベイルマン。ユニオンの副総長です。」

「副総長がなぜ…オリエちゃん、臨時支部長が何か言ってきたの？」

「いえ、特には…ただ、指示に従うようにと…」

「なんか嫌な予感がするわね…私たちの知らないことがありそうね。」

「ええ、少し調べる必要がありそうね。特に次元種側の技術を再現したということについては…」

「ああっ！ねえねえ、このバイク、ちよつと見て！とつてもカッコいいです！」

「うわあ！すごい！これ、自動で動くんですね！人の話が分かるみたいです！」

「もちろん、分るでしょうね。人工智能が搭載されてるって言ってるし。」

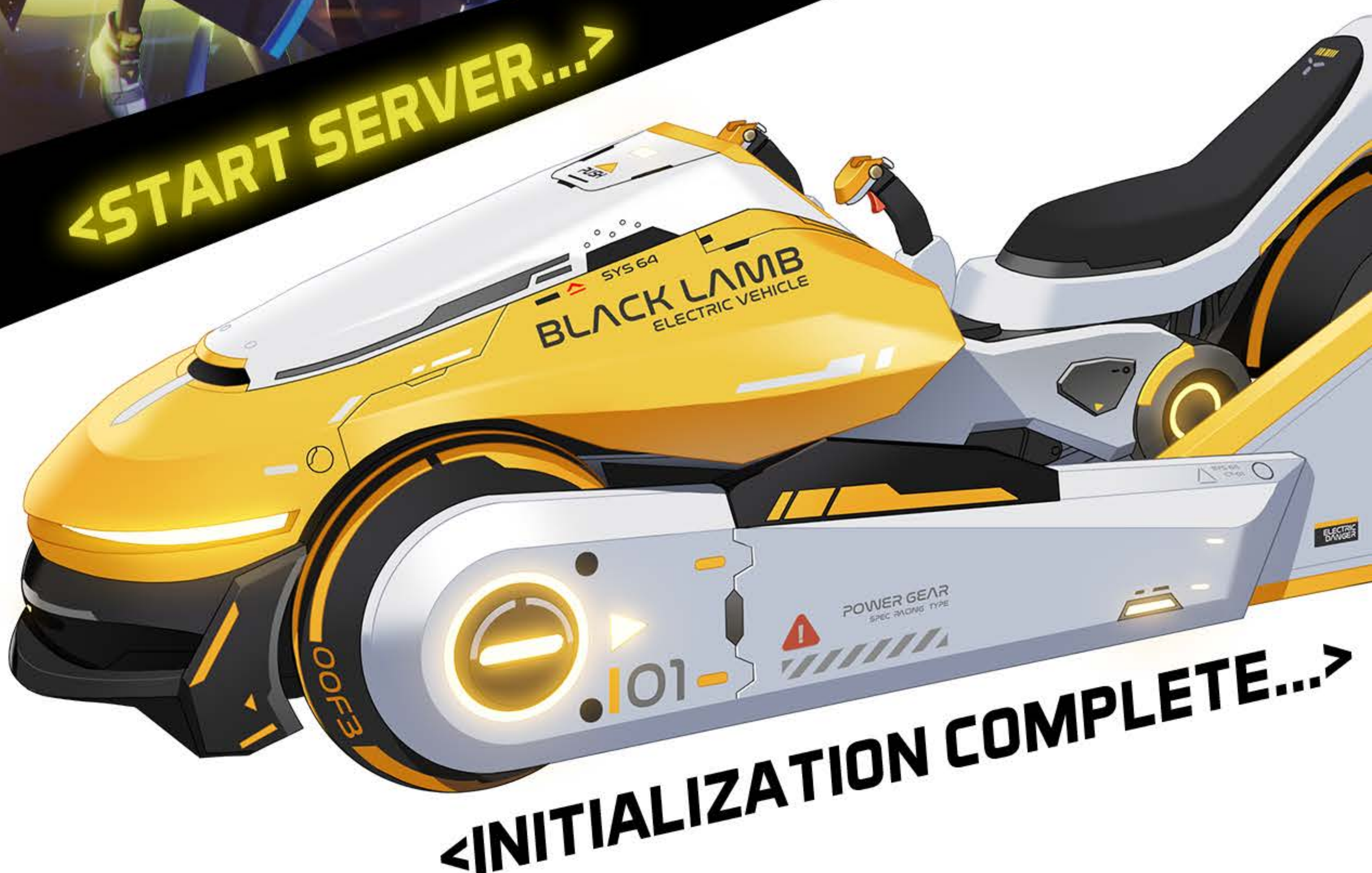
「…ハア、みんな警戒心なさすぎるのよ。」

「す、すでにバイクの方に行っちゃいましたね…」

「機械に対してまったく恐れてないようね。私なんてスマートフォンを変える度に大騒ぎなのに。」

「Jさんが問題ではないでしょうか…」

「とりあえず、行ってみましょう。人工智能が話し始めたそうよ。」



ヘイ…ボーイズ&ガール…

貨物輸送中ニ言語パックオフ…非人道的ナ仕打ち…

トコロデキミ達ガ…オオトリ支部ノブラックランブスチーム？本当？リアリー？

会エテ嬉シイ…ワタシ<イエローライダー>…

ホイールオブトリニティ？ソレ偽リノ名前…イエローライダーワタシノ魂ノ名前…

キミ達ブラックランブスチーム…マイファーストドライバーニ聞イタ…

ワタシ達ノライダーハ…最初ノ試運転者ヲロールモデルニ進化スル人工知能…

ダカラ性格使ウ言語似テイル…驚カセタナラベリーソーリー…

マイファーストドライバー言ッタ…キミ達ガワタシヲ完璧ニシテクレト…

ワタシ達ノライダーハ不安定…戦争中ニ捕エラレタ次元種艦船ノダウングレード…

逆工学デ分析シタガ完璧デハナカッタ…ソノ結果、キミ達ノ知ルホイールシリーズノヨウナ劣化コピー…

タダワタシ達ハ学習成長型…ドライバート一緒ニレベルアップ可能…

ダカラキミ達…ワタシノ仲間ニナツテ…

ドンナ境地デモコノ優秀ナ逆三輪デ突破シテ…

内蔵サレタ位相チャージエンジンデ旅客機ヨリ速ク…

ソウヤツテ一筋ノ…流星ニナル！キャハハハハッ…！

「これは……今、ライナさんが浮かんだの私だけじゃないよね？」

「う、うん！最後の笑い方まで本当に似てた！」

「とにかくライナさんがフォースドライバーだったそうね。」

「あ……私も誰だかわかる気がします。オオトリ支部の軍需エージェントですよネ？」

「そう！よくアタシたちを乗せてくれたの！幻想かって思うくらい速いのよ！」

「幻想かってくらい目も回ったけど……」

「そ、そうだったのですね……ものすごいスピード感だとは聞いてましたが……」

「隊長！ライナさんとも聞いたなら協力してあげてもいいんじゃない？」

「……そうね、これ以上警戒しても変わることなんて無さそうだし。」

「よーし！アタシが1番！アタシが最初に乗るわ！」

「あ、ズルいです！じゃあ、ミステイルが2番！2番目に乗るです！」

「おいおい、誰も奪ったりなんかしないっての……どうせ各チーム5台ずつあるんだろ？」

「人工知能が？イエローライダーが5台も管理するですか？」

「ええ、他のチームも5台につき1つの人工知能が管理してるわ。」

「全4チームだから、4つの人工知能が存在するってことか。性格はみんな同じなんだろうか？」

「気になるなら行って聞いてみようよ！かつこよくバイクに乗ってさ！」

「もうスラッシュお兄ちゃんとルナお姉ちゃんに乗って出発してるです！ルーシーお姉ちゃんも！」

「なんかサーキットとかありそうだな！レースでも始まる雰囲気だ……」

「ハルト、やるからには絶対に負けないでよ！どうせやるなら勝利あるのみ！」

「相変わらずの勝負気質……ま、オレもゲームなら負ける気はないけど。」

「よし！じゃあ、みんな乗って出発よ！イエロー戦隊出動！」

「み、みなさん頑張ってください！ブラックランブスチーム、ファイト！」

「パッドで操縦できないのか？それの方が楽なだけだな。」

ユー・・・ワンダフルボーイ・・・

スベテゲーム感覚・・・コレガ今ドキノ若モノ・・・

ダガ習得早イ・・・勝負仕掛ケルセンス、タイミングスベテヨシ・・・

優秀ゲーマー・・・イヤドライバールナレルカモ・・・



「追い越さないと…でも、安全な速度は維持しないと…」
ユー…ベリーベリー模範生…
デモミスマッチ…レースト不協和音…
内面ノモンスターガ苦シンデイル…走りタイト…
交通規則ハ公道デ…サーキットデハサーキットノルールニ従ッテホシイ…



「ちょ、ちよつと待って！話しかけないで！集中できないって！」
ユニニュービードライバー…

ブレーキトアククセルノ混同…衝突機器多数…

デモソノ度奇跡的ニ回避…反射神経ト空間感ガ優秀…

泥ノ中ノダイヤモンド…栄光ノレーザートナル可能性ガ見エル…



「まったく。いつぶりだ？」

「この免許証を取り出すのは…」

ユー…ベリーベリーオールドボーイ…

視力ト体力ノ低下目立ツ…長距離運転不可…夜間運転不可…

デモオーラ感ジル走行…閃クドライビングテクニク…

ワタシノサポートガ一緒ナラ…全盛期ノ実力取り戻セル…！



「走ります！イエローライダー！」

君ならやれる！がんばります！」

ユー…マイリトルフレンド…

ワタシヲ友達トシテ接シテクレルアリガタイ…

ベリーベリー感謝…

デモワタシ変身ロボットデハナイ…合体不可能…

ダカラ残念ナ顔シテモ…イヤ頑張ツテミル…





ユニオンオオトリ支部特殊処理班所属 ウルフドッグチーム

「オイ、オッサン！なんだよ、これ!？」

「書いてある通りだ。ヒルデガルト副総長が直々に俺たちを指名して依頼されたものだ。」

「生まれつき不安定自律機動型位相チャージバイク。これまたすごく欲の出る物が来ましたわね。」

「次元種側の技術を再現したただなんて…危険な物じゃないのでしょうか？」

「心配いりません。ヴァルチャーズで武器を作ることもそれと似たようなものですから。」

「ああ、次元種の残骸を集めて活用するのも逆工学の一種だ。」

「だが…単にそんなものだったら、こうやってテストなんて依頼しないだろう。」

「つまり、隠された意図があるってことですか？気を付けた方が良さそうですね。」

「……そんなこと言いながら、すでにレーシング用の服装に着替えてるな、ハーピー。」

「フフッ、輝きが美しすぎて。このバイク、二輪の免許でも乗れますよね？」

「三輪車は1種小型のみ。三輪バイクは2種普通と原動機免許で運転可能だ。ところがホイールオブトリニティは人工知能を運転の主体とするから、お前たちは単に搭乗者として認められるから免許は…」

「……………」

「……………」

「……オッサン。詳しいみたいだけど、バイクに興味あんのか？」

「そんなはずがあるか。お前たちがテストするから調べただけだ。」

「あ、あの…お話はこの辺にして、実際に乗ってみてはどうでしょうか？」

「そうね。ハイドがセッティングしてくれたそうなので早く乗りましょう。」



ヘイ…ボーイズ&ガール…

貨物輸送中二言語パックオフ…非人道的ナ仕打ち…

ソレニシテモキミ達ガ…オオトリ支部ノウルフドッグチーム？本当？リアリー？

会エテ嬉シイ…ワタシ<レッドライダー>…

ホイールオブトリニティ？ソレ偽リノ名前…レッドライダーワタシノ魂ノ名前…

ワタシ達ノライダーハ…最初ノ試運転者ヲロールモデルニ投影スル人工知能…

ダカラ性格使ウ言語似テイル…驚カセタナラベリーソーリー…

マイファーストドライバ―言ッタ…キミ達ガワタシヲ完璧ニシテクレルト…

ワタシ達ノライダーハ不安定…戦争中ニ捕エラレタ次元種艦船ノダウングレード…

逆工学デ分析シタガ完璧デハナカッタ…ソノ結果、キミ達ノ知ルホイールシリーズノヨウナ劣化コピー…

コレハ本来…今逃走中ノ…ミハエル・フォン・ギスクノプロジェクト…

デモ…レディヒルデガルトガ回収シテ再操縦…

次元種ノ技術ダガ…不安要素多イケド理解シテ…

ソノ代ワリワタシ達ハ学習成長型…ドライバート一緒ニレベルアップ可能…

ダカラキミ達…ワタシノ仲間ニナツテ…

ドンナ境地デモコノ優秀ナ逆三輪デ突破シテ…

内蔵サレタ位相チャージエンジンで旅客機ヨリ速ク…
ソウヤツテ一筋ノ…流星ニナル！キャハハハハッ…！

「なにこれ？ライナ・イクルミ？」

「何よりも速度を求めるところまでソックリですね？」

「ライナ様のクローン…脳が搭載されているわけじゃありませんよね？」

「ヒルデガルト副総長がそんなことするはずがない。」

「そうですね。そんな物でしたら研究用のサンプルだけ残して残りはすべて捨ててるハズですよ。」

「でも、ミハエル主導のプロジェクトって言うのが少し引つかかるわね。」

「……分析完了。オールクリーン。人の器官が移植された痕跡なし」

「ティナ？今何やったんだ？」

「別に何も。個体のAーに接続して内部をスキャンしただけ。」

「ちゃんと防備して接続したんだろうな？制御コードのような危険要素があるかもしれないぞ。」

「心配ご無用。二重三重に安全を確認したから。」

「フフツ、じゃあ、安心して乗れそうね。他のチームも似たようなこと考えてそうね。」

「各自支給されたバイクに乗って出てくるのですね。ハイド、運転できますの？」

「お任せください。お嬢さん。地球上に存在する乗り物でしたらなんでも可能です。」

「チツ…気が乗らねえ…。アイツがコピーした人工知能だなんて…」

「スラッシュ、どうしたの？みんな出発してるのに一人後ろで…」

「そういえば、スラッシュ様はライナ様の走りを怖がってましたね？」

「クツ…だ、誰がそんなこと言ったんだよ!？」

「あら？毎回乗るたびに悲鳴が…」

「黙れ！大人しく出発しやがれ！久しぶりの勝負だ！ゾンビ女！」

「見る！このオレ様を満足させられるのか？」
ユー…デンジャラス・ボーイ…
ハンドルカラ感ジル震エト水分デ…極度ノ緊張感知…
デモ…ドライビングスキルカラ感ジルパワフルサ…ベリーエキサイティング…
少シ余裕ヲ取り戻セバ…リアル道路上ノ支配者…！





「あ、あの…レッドライダー様？私、
お邪魔じゃないでしょうか？」

ユー…フレンドリーネイバーフード…

マシンノワタシニトテモ優シイ…マシントドライバーガ入レ替ワツタ気分…

ダカラ100パーセント…イヤ120パーセント性能発揮…

デモ呼称ダケ変エテ…演算ニ支障ガ…

「風を切るこのスピード感、ものすごく爽快！」

ユー…スピードレーサー…

ファーストドライバーデハナイガ…

トテモ優レタスピード狂…

風ノ流レヲ読ンデ飛ビ込ムセンス抜群…

デモ飲酒運転ハ絶対ニダメ…永遠ニ禁酒シテホシイ…



「レッドライダーと同期化完了。最短コースに向かう。」
ユー…マイベラルハーフ…
マルデー一体ニナッタ気分…コンナ感覚…ファーストドライバー以来…
エンジンハンドルブレーキアラル部分最大性能発揮…
デハワタシモ恩返し。一緒…流星ニナル！キャハハハッ！



「乗り心地がいいですわね。」

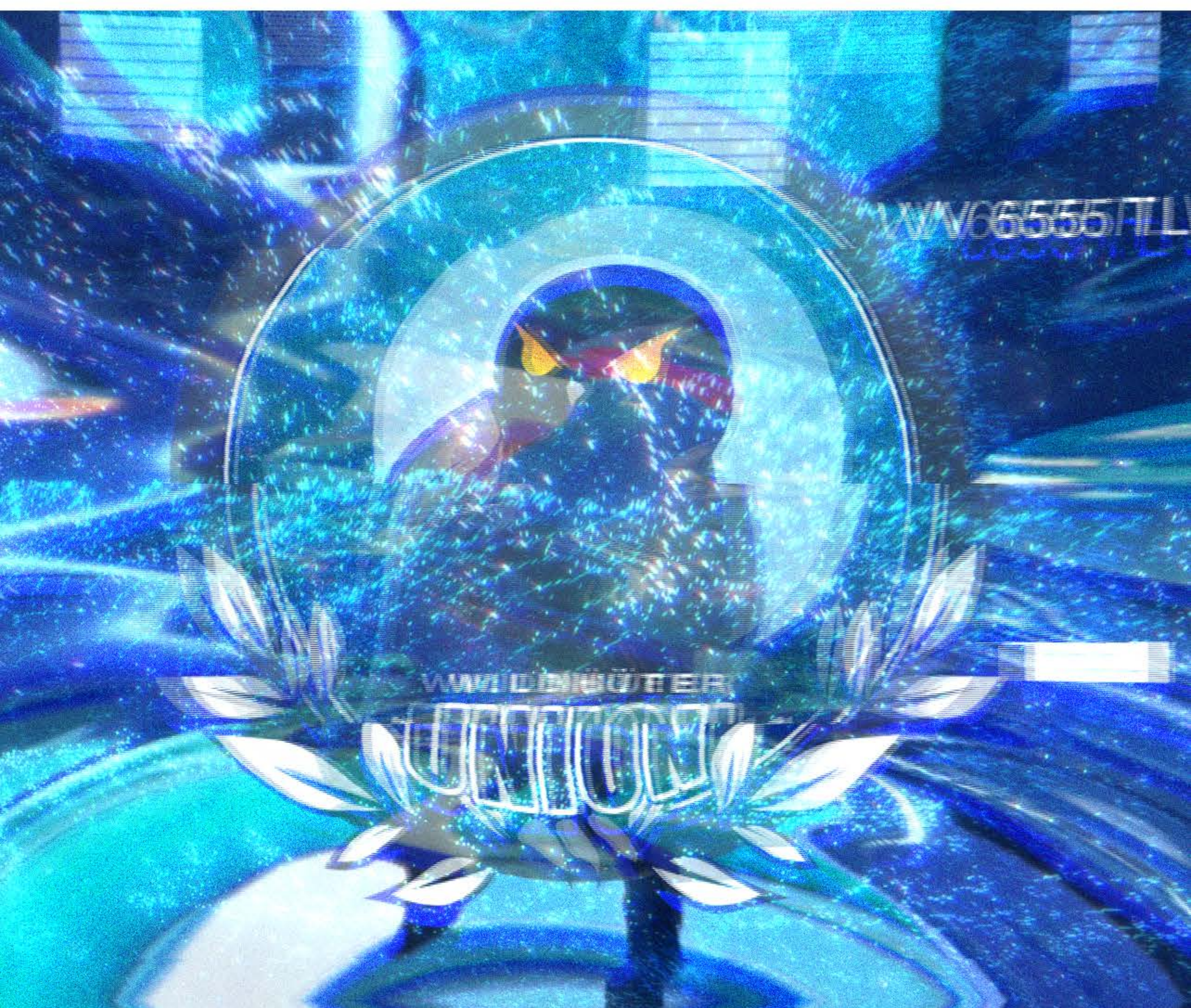
ハイド?もう少しスピードを上げてくださる?」

ユーアーナイト…ベリーグッドドライバー…

デモレディーガワタシニ乗ルト不満多発…

レディーノタメニベリーベリー安全運転…

学校前制限速度水準…コレデハテストニ支障出ル…



ユニオンオオトリ支部特殊処理班所属 ヴィルトフーターチーム

「なにこれ？昇級試験を受けて来たばかりなのに、なんでこんな偉い人から手紙が来てるの？」

「わ、私も急に連絡が入ったので…副総長が何かプロジェクトを進め得る用ですね。」

「そのようね。臨時副総長からは何も聞いてない？」

「ええ、特には…ただ、指示に従うようにと…」

「はあ、秘密主義はもうこりごりなのに…いつも思うけど、何かやる前に一言言ってくださるとありがたいんだけどね。」

「次元種の技術を解析して作った機械だなんて…いったい何を作ったんでしょう？」

「それをこれから調べるんだろ。だが、その前にこいつらに説明を…」

「ウワァ！野生のオートバイだ！これに乗って走ったら絶対にイケたギャグが浮かぶぞ！」

「すごい！三輪車がひとりで動くなんて！幽霊でも入ってるんじゃない？」

「バ、バカね！そんなはずないでしょ？人工知能がついてるって書いてあるし！」

「……………あのおバカトリオ、もう興奮して乗ってやがる。爆発でもしたらどうする気だ。」

「ば、爆発ですか？副総長がそんな危険な物を送るはずが…」

「先輩。まずはあの機械から見てみましょう。何か話し始めました。」

「よし、あのオートバイが何話すのか…直接聞いてみるか。」



ヘイ…ボーイズ&ガール…

貨物輸送中ニ言語パックオフ…非人道的ナ仕打ち…

トコロデキミ達ガ…ドイツ支部ノヴィルトフーターチーム？本当？リアリー？

会エテ嬉シイ…ワタシ<ブルーライダー>…

ホイールオブトリニティ？ソレ偽リノ名前…ブルーライダーワタシノ魂ノ名前…

キミ達ヴィルトフーターチーム…マイファーストドライバーニ聞イタ…

ワタシ達ノライダーハ…最初ノ試運転者ヲロールモデルニ進化スル人工知能…

ダカラ性格使ウ言語似テイル…驚カセタナラベリーソーリー…

マイファーストドライバー言ッタ…キミ達ガワタシヲ完璧ニシテクレルト…

戦争中ニ捕エラレタ次元種ノ戦艦ヲ逆工学デ分析シタ<リバースプロジェクト>…

ワタシ達研究ノ副産物…キミ達知ツテイルホイールオブフォーチュントリバースホイールソウシテツクラレタ…

デモ分析不十分…結果ホイールシリーズモワタシ達モ限界アル…

タダワタシ達ハ学習成長型…ドライバート一緒ニレベルアップ可能…

ダカラキミ達…ワタシノ仲間ニナツテ…

ドンナ境地デモコノ優秀ナ逆三輪デ突破シテ…

内蔵サレタ位相チャージエンジンデ旅客機ヨリ速ク…

ソウヤツテ一筋ノ……流星ニナル！キャハハハハッ！！

「ウワア、笑い声が不気味！ウルフ先生とソックリ！」

「なんだと？オレがいつそんな風に笑った？それにそいつ女の声だろ！」

「Aーの言うファーストドライバーって……誰でしょう？うちのチームで知ってる人いるんですかね？」

「そうですね……面識があるなら知らないはずが……こんなに独特な……いえ、個性的な方でしたら」

「シンプルに独特って言え。スピード感や性格も変わってるようだしな。」

「あの……ところでみんな驚きませんか？リバーズホイール……ホイールオブフォーチュンが次元種の技術だったなんて……」

「大体予想はついてた。あんなオーバーテクノロジーが空から降ってくるはずがない。」

「だ、大丈夫でしょうか？今まで何の問題もなく乗ってましたけど……」

「ああ、複雑な気持ちだ。だが……戦艦に罪はない。悪いのは次元種だ。」

「さ、雑談はここまでだ。まずはお偉いさんの言う通り耐えストを始めるとするか。」

「あれに乗るのか？じゃあ、セトは一番左のにする！あれが一番力ワイイ！」

「力、カワイイ？どれも同じように見えるけど……」

「あっ！先手を打つなんて！左のは私が先に目を付けてたのに！」

「みんな、そんなに急がないで下さい。人数分ありますから。」

「ああ。それよりオレはパートナーが心配だ。あれに乗れるか？」

「もちろんです。修練を重ねて今は機械にもすっかり慣れました。マウスでクリックもできますから。」

「そ、そうか……それは良かったな……ま、人工智能が備わってる運だから何とかなるだろ。」

「おお！これ見て！超早一三輪車だ！」

「あら？セトが出発してしまいましたね？先生！こうなった以上、私たちも出発しましょう！」

「ソ、ソーマ？待って！え？もうあんなところまで行ってるじゃない？！」

「おい、適当に行ったら……！　ったく、あのトラブルメーカーたちが……おとなしくしてる日が無いな。」

「良くとらえましょう、先輩。新たな装備を気に入ってくれたみたいですし。」

「ハア、そうだな。どうせテストはやらなきやだしな……オレ達も出発するか。」

「ふふ、皆さん意欲が溢れてますね。では、みなさんが無事に帰還するように祈ってます。」

「無事に帰還……その言葉、なんか不吉だな、アリス……」



「よし、このまま勤務地から離れるか……！」
ユー……デンジャラス オーナー……
ライディング中本開クト困ル……安全規則守ッテ……
デモ走り方ニハートアル……ロマンアル感性ドライバー
運転ニ集中シタラ……スバラシイライダーナレル……

「全てにおいて完全無欠の運転を見せてあげる！」
ユー…ベリーオツチヨコチヨイ…
完全無欠言ウガミス多発…特ニ中央線…
デモ最高ニナル情熱スゴイ…ダカラ恐ロシク成長中…
ワタシトノ出会イ幸運…最高ノライダーニ育成サセル約束…



「漢方医がオートバイを

始動させると鳴る音は？グー——ん！」

ユー……トゥーマッチトーカー……

ヨク意味不明ギャグ連発……座席射出させタクナル……

デモ野生溢レルセンス本物……思イキリ疾走スル荒野ノ突風……

テクニックヲ上ゲレバ……イヤソノ前ニギャグセンスカラ……



「クツ、レバーが多すぎる……こ、これを引くと前に進むのかな？」
ユー……コスミックホラー……

前進後進区別デキナイ……道路デハ宇宙的恐怖ソノモノ……
デモバランス感覚瞬間判断力最高……踊ルヨウナ美シイコーナリング……
操作ダケドウニカ熟知スレバ……操作ダケドウニカ……ドウニカ……



「カワイイ部下ができたぞ！」

セトがエサもお風呂もやってやるんだ！」

ユー……マイリトルマジエスティ……

ワタシヲ大切ニシテクレル主人……最高級オイルト 適切ナ洗車 圧倒的感謝……

デモ残念ナガラ ペット 違ウ……フザケル 方法 データニナイ……

ソノ変ワリ ヒトツ 約束……主人ト 一緒ニ 世界ノ 果テマデ 走ル……！





ユニオンオオトリ支部特殊処理班所属 ドブネズミチーム

「わあ……ちょっとみんな見て、このバイク。ものすごい…」

「ここに鳩も入ってるのね。」

「ミ、ミライさん。それ鳩じゃなくて最新型のドローンですよ。」

「フーン…なんかしっくりこないなあ。ユニオンは私たちに何を試そうとしてるんだろう？」

「さっき、不安でチェックしてみましたけど、安全性には問題なさそうです。むしろそれより…」

「それより…？」

「このバイクに使われた技術、すべてものすごいものばかりです！特に旅客機水準の速度を出せるこの位相チャージエンジンと状況に応じて可変が可能に作られた独特なフレーム構造、またそこに装着されたサスペンションの組み合わせが本当に素晴らしい！さらに、ここに搭載された人工知能は人間の脳神経網構造を模倣して作ったものなので、別途データ入力がなくても自己学習が可能だ…」

ユキト・モリクニさんの目から光が！メカオタク丸出しですね！

「こういうの見て目輝かすところは相変らずね。」

「……とりあえず、安全には以上なさそうですね。」

「うん？待ってくれ……このバイク、ライトが点滅してるな。話したいこともあるのか？」

「そうね。一度聞いてみましょう。」



<START SERVER...>



<INITIALIZATION COMPLETE...>

ヘイ…ボーイズ&ガール…

貨物輸送中ニ言語パックオフ…非人道的ナ仕打ち…

トコロデキミ達ガ…オオトリ支部ノブラックランブスチーム？本当？リアリー？

会エテ嬉シイ…ワタシ<パープルライダー>…

ホイールオブトリニティ？ソレ偽リノ名前…パープルライダーワタシノ魂ノ名前…

キミ達ドブネズミチーム…マイファーストドライバーニ聞イタ…

ワタシ達ノライダーハ…最初ノ試運転者ヲロールモデルニ進化スル人工知能…

ダカラ性格使ウ言語似テイル…驚カセタナラベリーソーリー…

マイファーストドライバー言ッタ…キミ達ガワタシヲ完璧ニシテクレルト…

ワタシ達ノライダーハ不安定…戦争中ニ捕エラレタ次元種艦船ノダウングレード…

ソノ次元種ノ戦艦ノ主人トシテ推定サレルノガ機械王…

リアニメーターオリジン…機械王ノ遺産…キミ達ハソノ遺産ホ通シテイタ…？

ソナナキミ達ナラ…ワタシノアップグレード助ケルコトガデキルカモ…

ダカラキミ達…ワタシノ仲間ニナツテ…

ドンナ境地デモコノ優秀ナ逆三輪デ突破シテ…

内蔵サレタ位相チャージエンジンデ旅客機ヨリ速ク…

ソウヤッテ一筋ノ…流星ニナル！キャハハハハッ！！

「お、大人しいけど、雑な人工知能ですね。」

「なんか少し変な感じするけど…ユキト・モリクニさん、この人工知能、本当に大丈夫なの？」

「機能面は問題ありません。恐らくファーストドライバーの方がやや…変わってたみたいです。」

「そうか…一体誰なんだ？そのファーストドライバーとは…」

「ところで、その人工知能、機械王とリアニメーターオリジンの話してるわね。」

「機械王…クルマが言っていたあの魔物ですね。あおのバイクに使われた技術と関係あるのでしouxか？」

「リアニメーターオリジン…あれがあって私たちはクルマを倒すことができた。」

「見方によっては、俺たちは機械王とかいうやつに雁があるようだ。返すつもりはないがな。」

「急にチトセさんが浮かんでくるね。リアニメーターを高く売るって喜んでたっけな…」

「……………」

「だ、大丈夫ですよ！チトセ・カンザキさんならすぐに目を覚ましますよ！私たちをの期待に応えてくれるはずです！」

「……そういうね、チトセならすぐ目覚めてくれるはず。」

「ハア、だったらこんなところで情けない姿なんてしてられないね。」

「うん、今回のことも…後でチトセが目を覚ました時に役に立つかもしれないし。これもお手伝いの仕事ね。」

「そ、そうです！今回のことでヒルデガルト機関から報酬をもらいましょう！」

「そうね。簡単なテストだけすることにしよう。もう少し本格的なことは他のチームと一緒に走る時にでも……」

「うん？走行テストを他のチームと一緒にやるのか？」

「それってレースをするってこと？そうになったら……負けられないね。特にミコトには……！」

「あっ！シズクさんがマフラーを撒いて出発しちゃいましたよ！マフラーライダー・シズクさんです！」

「私たちも行こう。なんか……面白くなりそう。」

「運転は初めてだけど、一生懸命習うわ。お使いの仕事にも役立ちそうだから。」
ユー…ベリーカインドドライバー…
一生懸命習ッテ…覚エモ早イ…関心…
ワタシニモ良クシテクレル…ナデナデ…良い気分…
デモワタシノドローン…鳩デハナイ…



「少し荒いな。やりにくいかもしれないから前もって誤っておく。」
ユー…ベリーワイルドドライバー…

衝撃シーン浮かブ…ノワールアクションミタイナ走り…

コウイウノ…トテモ良イ…ワタシノ中ノモンスター起キル感ジ…

ダカラズット走ロウ…スベテ貫ク銃弾ミタイー！キャハハハッ…！！

「ブラインドアタック…相手が気づく前に追い抜いてやる。」
ユー…ベリーシャドードライバー…
不可視モード…追越スタメデハナイ…事故起キル…
検索…検索…該当機能アニメーションニダケ存在確認…
訂正…ユーアニメーションマニア…知ラナイフリ無意味…



「フフ、私はゆっくり運転するのがいいかな。やっぱり安全が一番！」
ユー…ベリースロードライバー…
街二飲ミニ出力ケル…高齢者が運転シテル気分…
後ロカラクラクションジットシテラレナイ
ウン…？バンバン言ウ人ニパンアゲテ許シテモラウ…？ナンセンス…





「フフ、これでお休みの日に家族旅行に出かけられそうね。」

ユー…ベリーファミリードライバー…

週末ニ家族乗セテ運転スル妄想…

ビーチ山カフェ行キタイトコロ多イ…

家庭的スバラシイケドレースニモ集中シテ…トテモアウトオブ眼中…



WHEEL OF TRINITY